

人権なら

2019年6月1日

第102号

NPOなら人権情報センター

●ひと・まち・生き生き

6月16日に第19期総会

理事・支局長会議で活動などの議案を確認

NPOなら人権情報センターは5月22日、三宅町のあざさ苑で第19期第1回理事・支局長会議を開いた。

古川友則・理事長は「私自身も含めて専従役員は参加者数が少ない現実を受け止めなければいけない」と、昨年6月の理事長就任後を振り返ってあいさつ。

「活動の見える化をはじめとして、支局の状況や村の現状を把握することや、財政状況の打開、学習会の開催などを提案してきたが、現状は進んでいない」と語った。



財政課題では、検討会議を立ち上げ、踏み込んだ議論をし、来年度予算案に反映させたいとした。

人事案件では、長年組織と活動を支えてきたKさんが3月末に退職。今後は理事・会員として参加する。後任には、4月からUさんが来ている。また、中企協職員だったMさんも3月で退職した。香川明英・専務理事は現在、体調を崩して、休職している、と報告した。

組織と活動の立て直しなどを総会に提案

このあと、諸議案について協議した。

(1) 昨年6月の総会以降、定例の事務局会議と対策会議を重ねつつ、組織と活動の立て直しや、事務所問題、財政課題をめぐって、一定の整理を進めてきた。第19期総会で提案するとした。

(2) 第19期総会は6月16日午後1時から、三宅町「あざさ苑」で開催する。総会議事についても提案。総会後に行う研修では、「不登校当事者からの語り」をテ

ーマに宇陀直紀さんに講演していただくことにした。

「差別と人権」研究集会の成功へ準備進める

(3) 第11回奈良県「差別と人権」研究集会は9月7日(土)午前9時30分から、田原本青垣生涯学習センターで開催するとした。集会テーマは「生きづらさに寄り添い、やさしさとぬくもりのある地域づくり」とし、準備していくとした。

第1分科会は「社会的孤立一つながり支え合う地域づくり」をテーマに、第2分科会は「LGBTQ一仲間との出会い」をテーマに、それぞれ企画・準備を進めることにした。

第1回実行委員会は6月28日午後2時から、田原本青垣生涯学習センターで開くこととした。

(4) その他の事業としては、第40回水平社敬老会を10月12日(土)午後1時から、川西コスモスホールで行うこととした。

学習会については、事務局で協議を進め、内容などを検討するとした。

「やまゆり園事件から3年」集會に結集

このほかの当面の日程を確認した。

労働保険年度更新・相談事務は6月17日から26日まで行う。いずれも午前9時30分から午後5時まで。また、源泉税上半期相談会は7月1日から10日まで行う。いずれも午前9時30分から午後5時まで。場所は、いずれも田原本事務所。問い合わせは0744-33-3939まで。

「やまゆり園事件から3年、優生保護法の被害者から話を聞く」集會は7月27日(土)午後1時30分から、奈良市中部公民館である。問い合わせはピープルファースト奈良(0745-42-1320)まで。

田原本企業内人推協が総会

谷野会長が「企業にとって人権は大切な課題」

田原本町企業内人権教育推進協議会は5月10日、田原本青垣生涯学習センターで2019年度総会を開いた=写真。



谷野守弘会長は「私たち企業にとって人権は大切な課題だ」と述べ、職場でのハラスメント問題を取り上げてあいさつした。来ひんの町長代理、住井康典・副町長、植田昌孝・町議会議長、平久一・桜井職業安定所所長、松村宙亨・町人権教育推進協議会会長が紹介され、代表して住井副町長があいさつした。

議案審議に移り、谷野会長が議長を務め、議事を進行。「事業報告」「会計決算」「監査報告」「事業計画」「会計予算」の議案を提案。すべて承認した。

「ハラスメントーあなたの職場は大丈夫」

記念講演は、「参画ネットなら」の松村徳子さんと、風味良美さんが「さまざまなハラスメントーあなたの職場は大丈夫」のテーマで話をした=写真。

「ハラスメント」とは、力関係において上位になった者が下位の者に対し、さまざまな力を用いて行う「人権侵害」。行為者の意図にかかわらず、“結果的”に他者の人権を侵害し、身体的あるいは精神的に傷つける。



ハラスメントには「パワハラやセクハラ」だけでなく、「マタハラ/マタニティー・ハラスメント」など、さまざまある。映像や、「職場でのハラスメント認識度チェック」表も紹介。「パワハラの類型」「防止のために実態を理解する」「問題への対処」方法も説明。最後に、「アンガーマネージメント/怒りのコントロール」を紹介した。

そのあと、グループに分かれてミーティング。各グル

ープでの議論や、具体的な職場での「経験」「対応」などが報告され、議論が膨らんだ。

会場受付には、今年も町内の県立高等養護学校1年生3人が体験活動の一環として参加。生徒たちは感想を述べ、感謝と応援の拍手を受けた。



三宅かいほう塾が始まる

今年度の「かいほう塾」が5月21日から、始まった。三宅町からの委託事業で、NPOなら人権情報センターが企画、運営をしている。これまで三宅町屏風の人権センター（旧解放会館）で行ってきた。今年度からは中央公民館で行う。中学生を対象に勉強（学力）指導や、居場所をサポートする。新スタッフを揃え、より充実した活動をめざしている。



開講式では、吉田陽介・町社会教育課長があいさつ。「今年度から、場所も移り、新しいスタッフを迎えた。中本先生も4月に着任された。しっかり勉強し、頑張ってください」と、式下中の先輩としてエールを送った。中本克広・式下



中学校長も「かいほう塾が続けられていることに感謝。フリースクール『ならスコール』代表の宇陀さんがスタッフに加わり、心強い」と述べ、勉強もしっかりと話した。

このあと、スタッフ、生徒たちが和やかに自己紹介。事務連絡や注意事項などが伝えられた。

翌日からのテスト控え、それぞれの課題や宿題などに取り組んだ。参加した生徒は11人。ボランティアを含めたスタッフ10人。NPOスタッフ4人。今後、「かいほう塾」では、教育相談などを含め対応していく。

5・15沖縄行動に3人が参加

辺野古座り込み行動や平和行進結団式に

5月15－17日の沖縄行動(平和行進)に奈良から3人が参加した。「沖縄・韓国民衆連帯」の活動を続けている友人から誘われて、この沖縄行動に参加するようになって、5年目。毎年、韓国からの「平和行進団」と共同行動している。

15日 午前。那覇空港に到着。レンタカーで南部戦跡の平和資料館・ひめゆりの塔などを回り、佐喜眞美術館(写真)へ。この時期、どこに行っても就学旅行の生徒たちに出会う。生徒たちの表情やまなざしが良い。緊張がほぐれ、心が解けていくのを感じる。



美術館では、館長の佐喜眞道夫さんから丸木夫婦の「沖縄戦の図」についての説明を、生徒たちに交じって聞いた。その後、宜野湾セミナーハウスに向かい、沖縄の友人たちや、韓国からの行進団と合流した。

16日 午前。辺野古座り込み行動(写真)に参加。その後、海上抗議船チームと、大浦湾グラスボートチームに分かれて活動した。



午後。沖縄武道館である平和行進結団式に参加するため、那覇市へ。会場には全国から参加した人たちを含め、400人ほどが詰めかけ、会場は熱気に包まれた=写真。



進む宮古島、石垣島への自衛隊配備を批判

1部では、高良鉄美さん(琉球大学名誉教授)が基調講演。2部は全国結団式で、山城博治さんが主催

者あいさつした。山城さんは宮古島と石垣島に自衛隊の配備が進められていることに触れ、辺野古の闘いとともに、強く反対していく決意を述べた。

海外ゲストの「韓国基地平和ネットワーク」代表、イム・ユンギョンさんは「韓国でも米軍基地によって生態系や平和が脅かされている。基地が撤去されてこそ平和な暮らしが始まる」「基地はいらない!」と発言した。

海を越え「沖縄・韓国－民衆と平和構築」

終了後、宜野湾セミナーハウスに戻り、午後6時半から開かれた「『沖縄・韓国－民衆連帯と平和構築』－海を越え・手をつなごう」の集会に参加した。

司会は豊見山雅裕さん。韓国からの報告は、①平澤平和センターのイム・ユンギョンさんが「駐韓米軍の現況と韓国反基地運動の現場」②韓国国際平和フォーラムのリュウ・ギョンワンさんが「沖縄闘争と日韓平和連帯の新たな模索」③韓国基地平和ネットワークのシン・ジェウクさんが「韓米防衛費分担金 特別協定 現状報告」④パク・スギュさんが「星州ソングジュTHAAD配備反対の現場から」⑤済州島江汀カンジョン村海軍基地反対住民会共同代表コ・コニルさんが「第二空港の状況」などが、報告された。



最後に、置本富貴子さんが「韓国平澤基地DMZ人間の鎖 韓国訪問報告」。一緒に訪韓してきた高里鈴代さんも発言した=写真。

辺野古ゲート前から宜野座まで行進

17日 辺野古ゲート前から宜野座役場に向けて平和行進(写真)。全体の行動は19日の宜野湾海浜公園での平和集会まで続く。私たち3人は17日の午後、行動から離れ、帰途に就いた。



成長から縮小社会に転換を

松久寛・京大名誉教授が「縮小社会への構想」

立憲市民フォーラム奈良主催の連続講座「未来社会への構想」の3回目が5月19日、橿原市であった。

縮小社会研究会の松久寛・京都大学名誉教授



が「縮小社会への構想」、同メンバーで農業従事者の青野豊一さんが「贈与＝交換関係について－社会展望としての意味－」と題し、それぞれ問題提起した。

松久さんは、成長が当然視される現代社会にあって、このまま成長を進めると未来は破滅に導かれると言う。成長には質と量があり、量の成長は、より多くの物を生産するため、資源と、廃棄物の処理が必要に。これが過度になると過去の遺産を食いつぶし、未来にツケを回す。これ故に永遠の経済成長を疑問視する。

松久さんは、国内総生産(GDP)と、個人の豊かさとは別のものだとする。GDPが世界3位の日本は、一人あたりにすると世界25位。国連の世界幸福度報告では世界58位となる、と指摘する。経済活動にとって問

編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

10月からの消費増税を前に景気は一向に良くならない。むしろ悪化の傾向にあって、先行き不安が充満する。人々の所得は長年、上がらない。個人消費は冷え込んだままだ。景気が回復しているという実感は人々にはない。日銀は異次元緩和を続けてきた。だが、うまくいかない。デフレを終わらせ、経済成長を図るとしたアベノミクス。株価を官製相場場で吊り上げ、成長を見せかけてきた。もはや打つ手が無い。そんななか、現代金融理論が登場した。日銀が紙幣を刷って、財政赤字を穴埋めすれば良いのだという。放漫財政の極みだ。超インフレが到来し生活破壊が起きてしまう。

題になるのは、食糧、エネルギー。日本の食糧自給率は39%。エネルギーは石油に依存している。深刻な状態なのだと言う。

経済成長は資源の枯渇と高騰、環境の限界などでいずれ破綻する。イースター島を例に挙げ、燃料がなくなれば、文明は破綻するとし、実際、森林破壊が進み、食糧の奪い合いが起り、滅亡したのだという。そもそも成長の原動力は作られたものだと言う。電通がPRした「もっと使わせろ」「捨てさせる」などの「戦略十訓」を取り上げ、説明した。

私たちは人権を守ると言うが、現在の自分たちの人権のことで、次世代の人々の人権を守るとは言わない。文明が持続する未来に向けて、縮小した幸せな社会づくりを目指そうと語った。



贈与＝交換関係を通して人との関係づくりを

青野さんは現在、香川県で農業に従事しながら、縮小社会づくりを念頭に活動している。地元での実践を踏まえ、話をした。

人間は他人との対話、心の交流が必要だとする。その心の交流は何ものかの物や事の交流を通して成り立つ。この交換関係は親子、兄弟姉妹、親戚、友人知人、近所関係の維持に必要なのだという。物と事を通して人との関係ができる。

旧来の村落共同体としての諸関係には問題があるとする。人間関係づくりには農作物の交換が最適だとする。具体例を挙げての話に興味をそそられた。

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター

〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail:info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/